

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)セトル九大新町 新築工事	階数	地上6F
建設地	福岡県福岡市西区九大新町9番2、3	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、防火指定なし	平均居住人員	245 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年7月1日
敷地面積	4,146 m ²	作成者	西 洋一
建築面積	1,884 m ²	確認日	2016年7月1日
延床面積	8,416 m ²	確認者	西 洋一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他
第1種住居地域内に域に建つ共同住宅として、建築物の環境品質を高めるのと同時に周辺に対する環境負荷を抑えるよう計画した。	0
Q1 室内環境 ①乾式界壁の遮音性能=TLD=57程度 ②共用部屋光率=4.10、住戸光率=3.00 ③底とカーテンと庇を組み合わせてグレアを制御可能。 ④ほぼ全体的にF☆☆☆☆を使用している。	Q2 サービス性能 ①壁: ビニルクロス (20年)、天井: ビニルクロス (30年) ②給水管=VP (B)、給湯管=ポリブデン管 (B)、汚水管=VP (B)
LR1 エネルギー ①一次エネルギー消費率=0.91	LR2 資源・マテリアル ①自動水栓に加え、節水型便器を使用している。 ②LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。
	Q3 室外環境(敷地内) ①外構緑化指数=62.95%、空地率=54.56% ②中高木の水平投影面積率=44.54% ③緑被率、水被率、中高木の水平投影面積率=48.64%
	LR3 敷地外環境 ①ライフサイクルCO ₂ 排出率=85% ②適切な量の駐輪駐車台数を確保。導入路を分けてわかりやすくしている。 ③光害ガイドラインのうち一部を満たし、屋外広告物は過半を満たす。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される